

湯川だより



第34号 2018/1/25
発行：御代田町 町民課

～安定したごみ処理の実現と新クリーンセンター整備に向けて～

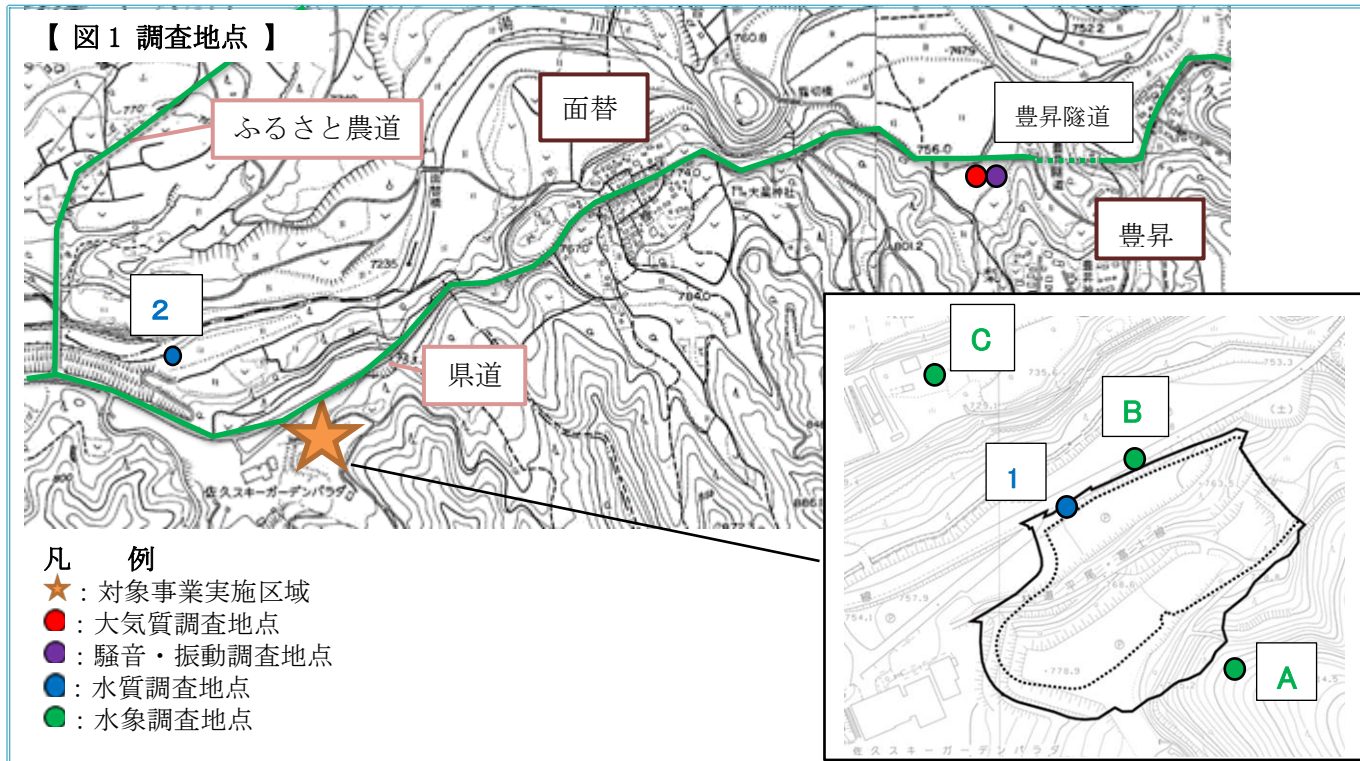
平成29年度 環境影響評価 事後調査結果及び環境保全措置の状況について

■生活環境系にかかわる調査について

造成工事による影響の有無を調べるため、4つの調査項目で実施しました。特に昨年秋、現場で発生した残土を豊昇区での道路改良工事に利用することとなったため、残土搬出ルートにおいて、大気質・騒音・振動に関する調査を行いました。

今回の調査結果につきましては、すべての項目において環境保全のための目標値内の状況でした。

調査項目	調査内容	調査地点 (下の図1参照)	調査期間
大気質	二酸化窒素 浮遊粒子状物質 他	1 地点 ・豊昇区 残土搬出ルート	平成29年9月29日～ 平成29年10月5日
騒音・振動	道路交通騒音・振動レベル 交通量調査	1 地点 ・豊昇区 残土搬出ルート	平成29年9月29日
水質	生活環境項目 現地調査項目	2 地点 ・1 沈砂池付近 ・2 湯川合流点	(平常時) 平成29年6月16日 (降雨時) 平成29年10月24日
水象	地下水位	3 地点 ・A 観測井戸 ・B 観測井戸 ・C 既存井戸	平成29年4月～平成30年3月



調査項目	事後調査結果				
● 大気質 (豊昇区・残土搬出ルート)	○残土搬出ルートの沿道にて二酸化窒素等の状況を調査しました。結果、環境保全のための目標値を下回っている状況です。				
	【二酸化窒素、一酸化窒素、窒素酸化物 (単位：ppm)、浮遊粒子状物質 (単位：mg/m ³)】				
	調査項目	事後調査結果(日平均値)		環境保全のための目標	
	平均	最高			
二酸化窒素	0.004	0.006	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。		
浮遊粒子状物質	0.011	0.024	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であること。		
● 騒音・振動 (豊昇区・残土搬出ルート)	○残土搬出車両により発生する騒音や振動の状況を調査しました。結果、環境保全のための目標値を下回っている状況です。				
	【道路交通騒音・振動レベル (単位：デシベル)】 7時～19時の平均値				
	【騒音】事後調査結果 等価騒音レベル(L _{Aeq})	環境保全のための目標		【振動】事後調査結果 振動レベル(L ₁₀)	環境保全のための目標
59	65以下		30	65以下	
【交通量】					
大型車		③小型車 (台)	④合計 (台) (①+②+③)	工事関係車両 混入率 (%) (②/④×100)	二輪車 (台)
①一般車 (台)	②工事関係車両 (台)				
29	194	723	946	20.5	14
● 水質	○土地造成、掘削工事に伴い発生する濁水の浮遊物質と濁度を調査しました。結果、異常値は見られませんでした。				
	採取年月日	計量の対象	単位	計量の結果	
				1. 沈砂池付近	2. 湯川合流点
2017年6月16日 (平常時)	浮遊物質 (SS)	mg/L	- (※)	5	
	濁度	度	- (※)	6.9	
2017年10月24日 (降雨時)	浮遊物質 (SS)	mg/L	66	67	
	濁度	度	56	82	
※) 沈砂池付近について、平常時は沈砂池から雨水の流出がなかったため計量は行っていない。 注) 環境保全のための目標は、現況(アセス現地調査時:浮遊物質100mg/L程度)の水質より悪化させないこと。					
● 水象	○地下水位の状況について調査をしました。結果、各地点の水位は、ほぼ一定の状況でした。				

■動植物系にかかわる調査について

平成 27 年度から開始した動植物系の調査状況について、今年度の状況は以下のとおりとなっております。引き続き、環境に配慮した安全・安心な工事の進捗に努めてまいります。

【植 物】

ヤエガワカンバ

環境省レッドリスト 準絶滅危惧
長野県版レッドリスト 準絶滅危惧

平成 27 年 4 月に工事の影響が少ない場所へ移植した成木の枝に、平成 29 年春からサルノコシカケ科のキノコが見られるようになりました。夏には旺盛に葉を茂らせ、秋には松ぼっくりに似た果穂をつけましたが、専門家の意見を踏まえ、休眠期にあたる冬の間に、キノコの生えた枝の切除等を実施予定です。

平成 27 年から開始している播種育苗も継続しています。7本の稚樹が生育しており、大きいもので 30cm 程に生長しています。今後も成木からの種子の採取を行い、播種育苗を続けていきます。

▶ 今春、現地に植樹予定の稚樹



◀ 成木の果穂（種子）

ギンラン

長野県版レッドリスト 準絶滅危惧

平成 27・28 年に工事の影響を受けないよう個体を移植した周辺で、生育状況の確認を行いました。ギンランは、菌類と共生する特殊な生育形態を持ちます。これまで毎年 1 個体の確認にとどまっていたが、平成 29 年度は、10 個体近く確認できました。



オニヒョウタンボク

環境省レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類
長野県版レッドリスト 準絶滅危惧

平成 27 年 4 月に工事の影響が少ない場所へ移植した成木 8 個体は、順調に生育しています。

播種や挿し木も継続して行っており、平成 29 年 3 月に実施した挿し木 20 本のうち、半数ほどが生育し、冬芽を形成しています。

▶ 赤く色づいた実



【動 物】

クリイロベッコウ

環境省レッドリスト 情報不足

クリイロベッコウは、カタツムリのような形をした直径 6mm 程の陸産貝類です。事業計画区域内で生息地が確認されていたため、平成 27 年に生息基盤の移殖を実施しました。

移殖先で生育個体の確認調査を行いました。今年度は死貝 1 個体の確認にとどまりました。来年度も引き続き調査を続け、生貝の確認を目指します。



ベニモンマダラ

環境省レッドリスト 準絶滅危惧
長野県版レッドリスト 準絶滅危惧

ベニモンマダラは、黒っぽい羽根に紅色の斑点を持つ蛾です。

本事業により、生息場所となる斜面が消失してしまうため、平成 27 年度より新たな生息場所の環境整備を行っています。播種や移植により、幼虫の食草となるクサフジを増やすことを目指しています。



成虫の生息確認調査では、クサフジ移植先で 3 個体の成虫が確認されました。

◀ 新たな生息場所で確認された成虫（交尾中）

希少猛禽類

○ハチクマ ○ハイタカ

環境省レッドリスト 準絶滅危惧
長野県版レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類

○ノスリ

希少猛禽類の生息状況を確認するため、定点観察や営巣確認を行いました。

5 月から 8 月まで実施した定点観察では、上記の対象種が何度も確認されました。



▲ハチクマ成鳥（雄）

建設現場周辺のノスリの営巣地では、雛 1 羽が確認されるなど、工事開始前の調査時と比べ、大きな変化は見られませんでした。

希少猛禽類については、工事期間中、引き続き調査を続けてまいります。

編集後記

今年も無病息災を願う恒例のどんど焼きが、各地区で行われました。

右の写真は、1 月 14 日に行われた面替区のだんど焼きの様子です。大勢の方が見守る中、高く組まれたやぐらに火が付けられると、暗くなり始めた空に大きな炎が浮かび上がりました。



▲梅の花を模した繭玉

やぐらの組み立てはもちろんのことですが、そこで振舞われる豚汁や各家庭で作られる繭玉など、地区の皆様のご準備の様子を伺い知ることができ、伝統行事を引き継いでいこうとする心意気を強く感じました。

新クリーンセンター建設工事は、今春からいよいよ本体工事が開始されます。大規模な工事となりますが、一歩ずつ着実に進めてまいりますので、ご理解のほどをよろしくお願いいたします。



【発 行】 御代田町役場 町民課 環境衛生係
御代田町大字御代田 2464 番地 2 電話：0267-32-3114（町民課直通）

【組合問合せ先】 佐久市・北佐久郡環境施設組合 事務局
佐久市中込 3056 番地（佐久市役所内） 電話：0267-62-2916